



User Profile

秋田県大館市

市役所所在地

秋田県大館市字中城20番地

市概要

出羽山地を流れる米代川・長木川沿いに開けた大館盆地に位置し、人口は8万2900余。比内地鶏、きりたんぼ等が名を馳せるほか、「忠犬八公」の生誕地としても有名

システム概要

オープンソースのIP-PBXソフトウェア「Asterisk」をデル製のPCサーバー「DELL Power Edge 840」に搭載。市内十数拠点を結ぶセントレックス型のフルIP電話システムを構築した。

導入の目的と効果

機器導入費が約820万円と、初期導入コストを大幅に削減したほか、拠点間通話をIP化することにより通話料コストも削減。年間440万円の省コストを見込む

秋田県大館市

Asterisk採用で劇的成本削減
内線500台のIP環境を“手作り”

地方自治体職員がオープンソースのIP-PBXソフトを用いて複数拠点を結ぶIP電話システムを“自作”。導入コストだけでなく、拠点間の内線化により通話料コストの大幅削減にも成功した。

文 坪田弘樹 (本誌)

市職員の手により、オープンソースのIP-PBXソフトウェア「Asterisk」をベースとしたIP電話システムを自前で構築した。

秋田県大館市は昨年末“自前の電話システム構築”の事実を公開した。市職員がシステム設計、Asteriskサーバー構築、端末の調達・設定、ネットワーク構築などすべてを担って実現したそれは、内線端末数500台、市庁舎や出張所・出先機関など十数拠点をセントレックス型で結んだ大規模なものだ。

大館市はこれにより、PBX更改コ

ストの低廉化に成功。のみならず、2008年4月の本格稼働以後、通話料の大幅削減も実現した。

「当初、電話に関する知識はまるでなかった。Asteriskのことも知らず、“Linuxサーバーをいじれる”程度の状態から始めた」

システム構築全般を担った、大館市産業部 商工課 商業労政係の中村芳樹主事は、一連の取り組みがスタートした06年を、そう振り返る。

自宅実験開始

大館市は05年6月、隣接する田代



大館市 産業部 商工課 商業労政係 中村芳樹主事

町、比内町を編入。既存の庁舎を継続運営する分庁舎制を採用した新「大館市」は、各庁舎のアナログ交換機を継続使用し、庁舎・関連施設間の通話には公衆網を用いていた。

合併後間もなく、この電話システムは職員の業務の足かせとなった。

課単位のダイヤルイン番号が存在せず、庁舎・拠点ごとの代表番号ですべての外線に応答し、交換手が各担当者に振り分ける運用形態を取っていた。行財政改革の実現に向け